

XP-002413298

(C) WPI / Thomson

AN - 1987-238756 [34]
AP - JP19860002790 19860108; [Based on JP62161711 A 00000000]
PR - JP19860002790 19860108
TI - Weak acidic gel type cosmetic material - comprises carboxy vinyl polymer, basic amino acid and alkali metal hydroxide
IW - WEAK ACIDIC GEL TYPE COSMETIC MATERIAL COMPRISE CARBOXY POLYVINYL POLYMER BASIC AMINO ACID ALKALI METAL HYDROXIDE
IN - SHIMIZU M
PA - (SUNZ) SUNSTAR KK
PN - JP62161711 A 19870717 DW198734
JP7045393B B 19950517 DW199524
PD - 1987-07-17
IC - A61K7/48; A61K7/00
DC - A96 D21 E16 E34
) AB - Material comprises water soluble carboxyvinyl polymer, basic amino acid selected from arginine, lysine, hydroxylysine and histidine and alkali metal hydroxide selected from KOH, NaOH and LiOH.
- USE :
The material is used for pack, skin cleansing, hair conditioner, etc.

THIS PAGE LEFT BLANK

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-161711

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)7月17日

A 61 K 7/00

7306-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 弱酸性ゲル状化粧料

⑯ 特 願 昭61-2790

⑰ 出 願 昭61(1986)1月8日

⑱ 発 明 者 清 水 満 章 京都市中京区西ノ京北門町14-2

⑲ 出 願 人 サンスター株式会社 高槻市朝日町3番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 青 山 葆 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

弱酸性ゲル状化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 水溶性カルボキシビニルポリマー、塩基性アミノ酸およびアルカリ金属水酸化物を含有することを特徴とする弱酸性ゲル状化粧料。

(2) 塩基性アミノ酸が、アルギニン、リジン、ヒドロキシリジンおよびヒスチジンからなる群から選ばれる前記第(1)項の化粧料。

(3) アルカリ金属水酸化物が、水酸化カリウム、水酸化ナトリウムおよび水酸化リチウムからなる群から選ばれる前記第(1)項の化粧料。

(4) 弱酸性ゲル状化粧料の全重量に対して水溶性カルボキシビニルポリマーを0.01～5.0重量%、塩基性アミノ酸を0.01～5.0重量%およびアルカリ金属水酸化物を0.01～5.0重量%含有することを特徴とする前記第(1)項の化粧料。

3. 発明の詳細な説明

発明の分野

本発明は、皮膚に適用される弱酸性ゲル状化粧料に関する。

従来技術

人間の皮膚は酸性被膜(acid mantle)に覆われており、健康な状態においては弱酸性(pH 4.5～6.5)を呈している。したがって、皮膚に塗布する化粧料も弱酸性であることが皮膚の健康維持上望ましい。そこで、従来、ゲル化剤として水溶性、カルボキシビニルポリマーを用いるゲル状化粧料においては、該カルボキシビニルポリマーを中和し、該化粧料を所望の弱酸性とするために、一般に、トリエタノールアミン、ジエタノールアミンなどのアミン類が用いられている。しかしながら、これらのアミン類は、皮膚に刺激等の望ましくない影響をおよぼすことが報告されている。そのため、塩基性アミノ酸、アルカリ金属水酸化物などを中和剤として用いる試みもなされているが、これらの中和剤を用いた場合、該化粧料は弱酸性では十分にゲル化せず、適当な粘度のゲルを形成させるためには弱塩基性で使用しなければ

ばならず、皮膚の健康維持上望ましくなかった。

本発明者は、以上の問題点を克服すべく種々検討を重ねる間に、意外にも、塩基性アミノ酸およびアルカリ金属水酸化物を併用して水溶性カルボキシビニルポリマーを中和することにより弱酸性で適度な粘度を与えるゲル状化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

発明の開示

すなわち、本発明は、水溶性カルボキシビニルポリマー、塩基性アミノ酸およびアルカリ金属水酸化物を含有することを特徴とする弱酸性ゲル状化粧料を提供するものである。本発明によれば、皮膚の酸性被膜を損わず、健康維持上望ましい弱酸性（pH 4.0～6.8）のゲル状化粧料が得られる。

本発明に用いられる塩基性アミノ酸としては、アルギニン、リジン、ヒドロキシリジン、ヒスチジンなどが挙げられ、これらの1種または2種以上が化粧料全量に対して0.01～5.0重量%、好ましくは0.1～2.0重量%の範囲で配合され、ア

ルカリ金属水酸化物としては、水酸化カリウム、水酸化ナトリウム、水酸化リチウムなどが挙げられ、これらの1種または2種以上が化粧料全量に対して0.01～5.0重量%、好ましくは、0.05～2.0重量%の範囲で配合される。塩基性アミノ酸およびアルカリ金属水酸化物のいずれか一方の配合量が0.01重量%未満であると弱酸性において良好なゲルが形成されず、また、両者の配合量の合計が8.0重量%を超えると該化粧料が塩基性になってしまい、所望する弱酸性ゲル状化粧料が得られなくなる。

本発明の化粧料にゲル化剤として用いられている水溶性カルボキシビニルポリマーは、化粧料全量に対して0.01～5.0重量%、好ましくは0.2～2.5重量%の範囲で配合される。配合量が0.01重量%より少ないと十分なゲル性を呈さず、また、5.0重量%より多いと粘度が高くなり過ぎて、ともに化粧料として使用するのに適さなくなる。

つぎに、トリエタノールアミン、L-アルギニンおよび水酸化カリウムを中和剤として用いた化

粧料において形成したゲルの評価を行なった結果を示す。

試料として用いた化粧料はつぎの処方に従い、常法により製造した。

成 分	配合量（重量%）
水溶性カルボキシビニルポリマー	1.0
ソルビトール	3.0
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン	0.5
メツキンスM	0.3
メツキンスP	0.2
1,3-ブチレングリコール	4.0
ポリオキシエチレン（15 E.O.）	5.0
グリセリルモノステアレート	4.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油（40 E.O.）	0.6
香料	第1表に表示
中和剤	100に調整
精製水	

形成したゲルは、瓶中におけるゲルの流動性を

もとに、つぎの基準に従って評価した。

- …… 瓶傾倒後も流動性を示さない。
- △…… 瓶傾倒後徐々に流動性を示す。
- ×…… 瓶傾倒と同時に流動性を示す。

結果は第1表に示すとおりである。なお、稠度は不動工業（株）製レオメータNRM-2002J型を用いて、サンプルを25℃に恒温化し、直径10mmのアダプターを用いて、エレベーターの上昇速度を2cm/minとした条件下で測定した値である。

第 1 表

中 和 剤			評 価	稠 度	pH
トリエタノールアミン	Ｌ-アルギニン	水酸化カリウム			
1.0	0	0	○	4.9	6.7
0	1.2	0	×~△	1.2	5.8
0	0	0.4	△	1.1	6.4
0	2.0	0	△	1.3	7.1
0	0	0.6	△	1.5	7.8
0	1.5	0.3	○	4.8	7.6
0	0.7	0.4	○	5.3	6.8
0	0.6	0.3	○	5.2	6.5
0	0.5	0.3	○	5.1	6.3
0	0.4	0.3	△~○	3.9	6.0

第1表に示すごとく、L-アルギニンおよび水酸化カリウムを併用した場合にのみ、弱酸性の良好なゲルが得られる。

さらに、本発明の弱酸性ゲル状化粧料には、必要に応じて適当な非イオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、油分、ワックス、防腐剤、酸化防止剤、薬剤、紫外線吸収剤、色素、香料、水等を弱酸性およびゲル形成を損わない範囲で添加することができる。

本発明化粧料は常法に従って製造することができ、洗顔料、整肌料、整髪料等の通常の剤型とすることができる。

このようにして得られた本発明の弱酸性ゲル状化粧料は、皮膚を覆っている酸性被膜を損わず、皮膚の健康維持に好ましいものである。

実施例

つぎに実施例を挙げて本発明をさらに詳しく説明する。

実施例 1

つぎの処方により常法に従って弱酸性ゲル状洗

顔料 (pH 6.0) を調製した。

成 分	配合量 (重量%)
水溶性カルボキシビニルポリマー	1.0
ソルビトール	3.0
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン	0.5
メツキンス M	0.3
メツキンス P	0.2
1,3-ブチレングリコール	4.0
ポリオキシエチレン (15 E.O.)	
グリセリルモノステアレート	5.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 (40 E.O.)	4.0
香料	0.6
KOH	0.4
精製水	残部

実施例 2

つぎの処方により常法に従って弱酸性ゲル状化粧水 (pH 6.2) を調製した。

成 分	配合量 (重量%)
水溶性カルボキシビニルポリマー	0.4
エタノール	30.0
L-アルギニン	0.3
KOH	0.1
1,3-ブチレングリコール	2.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 (60 E.O.)	0.7
香料	0.2
精製水	残部

実施例 3

つぎの処方により常法に従って弱酸性ゼリー状ふきとり型パック (pH 5.9) を調製した。

成 分	配合量 (重量%)
ヒドロキシエチルセルロース	3.0
水溶性カルボキシビニルポリマー	1.0
ポリオキシエチレンオレイルエーテル (15 E.O.)	1.0
KOH	0.3
L-アルギニン	0.6

エタノール	5.0
香料	0.3
メツキンス M	0.2
精製水	残部

実施例 4

つぎの処方により常法に従つて弱酸性ゲル状へ
アコンデイションナー (pH 5.8) を調整した。

成 分

水溶性カルボキシビニルポリマー	0.8
プロピレングリコール	5.0
ポリオキシエチレラノリン	5.0
流動パラフィン	25.0
ミリスチン酸イソプロピル	12.0
ワセリン	6.0
ポリオキシエチレンステアリルエーテル (30 E.O.)	4.0
L-アルギニン	0.4
NaOH	0.1
安息香酸ナトリウム	0.1
香料	1.2
精製水	残部